

EVENT

「学生デザインレビュー  
'98-'99 in福岡」

建築や都市について勉強している学生たちから募集した作品を多方面の専門家が講師、学生たちの作品を通して、現代建築や都市を取り巻く問題について、広く一般の方々と交えて考える場とします。

日時：3月12日（金）10時～12時 作仙堂行

13時～20時 福永

3月13日（土）10時～12時 福永

13時～18時 講野会

10時～12時 公開講座

13時～18時 公開講座

会場：アクロス福岡（中央区天神一丁目1番1号）

交流ギャラリー（展示及び公開講座）

円形ホール（審議会）

講師：隈研吾、妹島和世、片岡篤志、藤森浩信、古谷誠章、松岡孝子

参加費：無料

問合せ：学生デザインレビュー実行委員会事務局

（博多デザイン倶楽部内）

電話092・651・8008



TOPICS

野多目の丘陵地が一日だけの美術館に  
「風に見える美術館」

森の中に展示さ

れた絵画や陶芸作品で南区野多目の丘陵地が美術館に变身！ 98年9月23日、地元を中心とした音楽家やアーティストの作品を楽しむ「風に見える美術館」が開かれました。絵画などの展示やコンサートのほか、Tシャツのペイントやたこ作り、バードウォッチングなど訪れた人が参加できるイベントが盛りだくさんで、地域住民を中心に約500人が一日だけの美術館を楽しんでいました。



この催しは、古くからの住民と新しい住宅地に移り住んできた住民とのコミュニケーションを促進しようと野多目でミニコミ誌「ブルーシユ」を発行する米倉治美さんが取材を通して知り合った仲間と一緒に企画したものです。「風に見える美術館」というネーミングは「丘に吹く風を感じながら目には見えない優しさや感動する心を見つけてほしい」という思いの表れだとか。初めての試みでしたが、日頃何気なく見過ごしている場所の再発見につながると参加者に大好評。米倉さんたちは、「今後も続けていきたい」と早くも次回の企画にとりかかっています。

「ジョギング中の人から「いつも楽しませてもらってありがとう」と声をかけられたり、札を見て希望者が次々に現れるなど、たくさんの方が見ていくくれたのだと初めて知りました。今年は実をつけるものが不作だったので、来年こそ自作で小鳥たちがたくさん来てくれたら……と希望を膨らませていきます」と藤崎さん。



彩都 第4号  
1999年2月  
発行＝福岡市都市整備局  
都市管理財都市景観室  
〒810-8620  
福岡市中央区天神一丁目8番1号  
☎092-711-4395  
編集＝福岡市都市整備局  
都市管理財都市景観室  
株式会社ジーエータップ  
表紙デザイン＝松浦 佳幸子  
アートディレクション＝黒田 克則  
デザイン＝松野 浩久  
撮影＝井上 一  
イラスト＝古賀 俊雄  
印刷＝株式会社ゼネラルアサヒ  
※本誌掲載の写真・記事の無断転載  
及び複写を禁じます

工場のまちに緑のオアシス  
「株志岐の島ビル」

博多区博多駅南四丁目



鉄工所や印刷所などが立ち並ぶ殺風景なまちなみの中で、緑で覆われた白いビルがひとさき目を引く一角があります。博多区博多駅南四丁目の「株志岐の島ビル」は道路沿いの緑化が見事。1階が店舗、2階以上が事務所のこのビルでは、昭和63年に完成して以来、オーナーの藤崎剛さんが熱心に植え込みを育て、今では四季折々の花や実が楽しめる立派な植栽になりました。植え込みには「花木が欲しい方には挿し木、根分けして差し上げます」という札もあります。

●都市景観審議会は、都市景観を通じた世代間の文化論といった様相になり、同席しておもしろく感じました。外国人が日本文化にあらがれるように自分たちの知らない古い時代のものがあるという学生に対し、その親の世代にあたる審査委員は「福岡の景観に大切なのは新しいものへのチャレンジ精神。なんだが逆のようですね。」

●その中間の世代に属する私は近未来的な新しいまちなみにも古い寺社にも親近感を感じません。私の原風景は、新興住宅地。普通のサラリーマン夫婦だった両親が60年代前半に建てたマイホームとその周囲のまちなみです。建築物として特に優れているわけでもない普通の家々ですが、皆が家の周囲を掃除し、生垣や花の世話に精を出していました。こういうまちなみを都市景観賞の対象として取り上げるのは難しいことですが、普通の人々の心地よく暮らす努力が景観を向上させると思っています。

●天神西交差点少道広場「平和の門」などの作者、松永真氏については、昨年8月に福岡でデザイン展が開かれていたのですが御覧になった方も多いのでは？ 作品の質もさることながらユーモアと多様さは圧倒的でした。インタビュのため御本人にお会いすると、話し言葉による表現がまた多様で言葉の洪水にアップアップ。そのなかでも、デザインの世界からアートの領域まで自在に飛び越えてしまう氏が両者の違いを「デザインを超越するのがアート。デザインは発展途上の世界で役に立つもの。すべてが成立した世界にはアートが必要になる。アートを花に例えると、花は無用の長物だけどうるおいをくれるでしょ」とかみ砕いて説明して下さいました。

編集後記